

2016年10月17日（月）



第56期（2017年3月期） 第2四半期決算説明会

（2016年4月1日～2016年9月30日）

代表取締役社長

最高経営責任者（CEO）

保木 潤一

常務取締役

営業本部長

山本 幸雄

経営企画部

広報課

山下 洋

HOGY MEDICAL Co., Ltd.

将来予測に関する注意事項

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しです。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。従って、これら業績見通しに全面的に依拠することはお控え願います。様々な重要な要素により、実際の業績はこれら業績見通しと異なる可能性があります。

本資料に含まれる業績については、監査法人による会計監査を受けておりません。

業績の概要

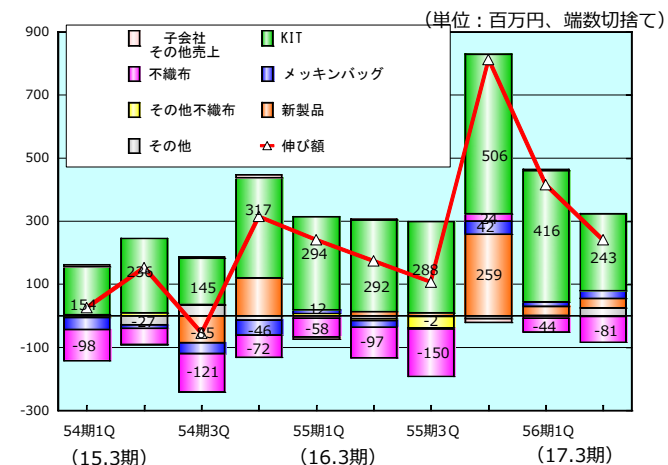
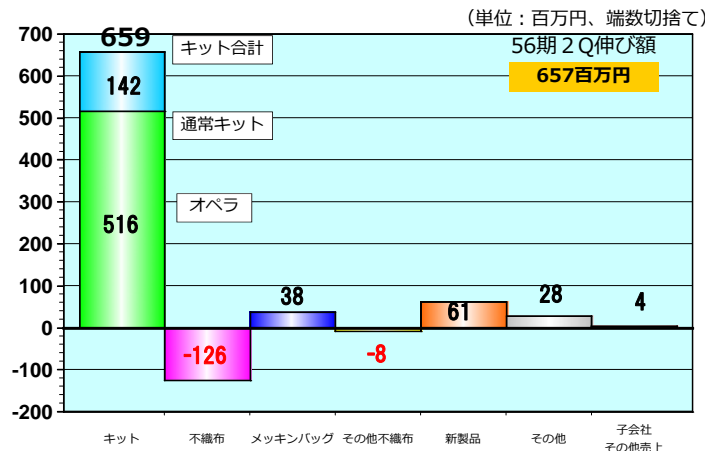
第56期（2017年3月期）第2四半期損益計算書

第56期（2017年3月期）第2四半期
主な製品の売上高伸び額

第56期（2017年3月期）
四半期別売上高伸び額の内訳



単位:百万円 切捨て	16.3 55期2Q実績		17.3 56期2Q実績		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	17,652		18,310		657	103.7%
営業利益	4,383	24.8%	4,089	22.3%	△294	93.3%
経常利益	4,467	25.3%	4,006	21.9%	△460	89.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,035	17.2%	2,685	14.7%	△349	88.5%
E P S	193.00円		170.99円			



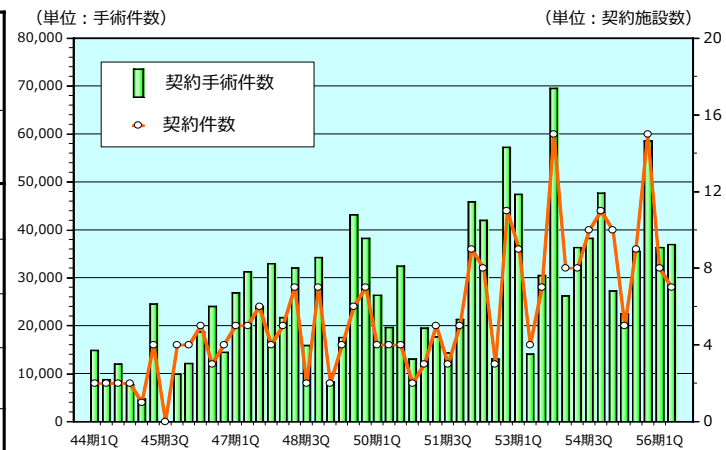
第56期（2017年3月期）第2四半期損益計算書

オペラマスター契約の施設数と手術件数推移

第56期（2017年3月期）第2四半期 ポイント



単位:百万円 切捨て	16.3 55期2Q実績		17.3 56期2Q実績		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	17,652		18,310		657	103.7%
営業利益	4,383	24.8%	4,089	22.3%	△294	93.3%
経常利益	4,467	25.3%	4,006	21.9%	△460	89.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,035	17.2%	2,685	14.7%	△349	88.5%
E P S	193.00円		170.99円			



*契約病院数は2016年9月末現在の状況

- オペラマスターは、新規契約数が15施設、解約が7施設
- 契約病院の半数がI群、II群病院
- プレミアムキットの臨床試用を6月末より開始し44病院で230症例で臨床試用
- プレミアムキットの販売開始
- 内視鏡用ホルダEMARO 2台販売
- 新工場の償却費用と為替の影響を受け原価が上昇（円高により影響は当初想定より軽微）
- オペラマスター施設で個人情報の漏えい

今後の戦略と対策

第56期（2017年3月期）損益計算書

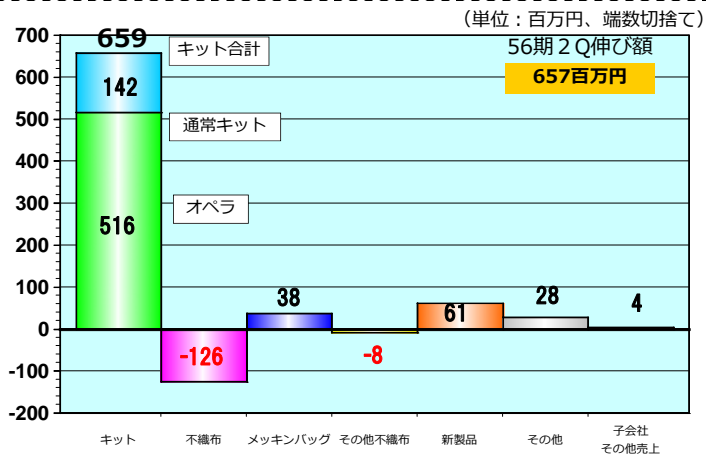
56期の施策

単位:百万円 切捨て	16.3 55期実績		17.3 56期計画		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	36,568		38,400		1,831	105.0%
営業利益	8,784	24.0%	7,180	18.7%	△1,604	81.7%
経常利益	8,924	24.4%	7,280	19.0%	△1,644	81.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,910	16.2%	5,000	13.0%	△910	84.6%
E P S	375.81円		319.62円			

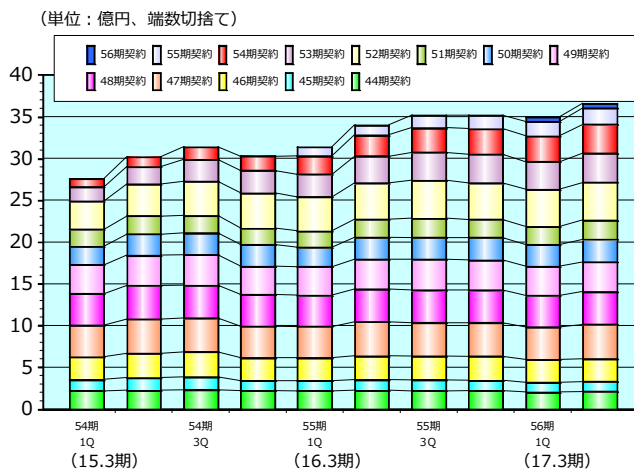
- 「増収減益」計画 オペラマスター戦略と新製品で増収
- 「プレミアムキット」臨床試用&販売開始
- 新製品の販売強化「手術管理SYS」、「EMARO」等
- EMAROの臨床試用件数の増加
- D P C病院のⅠ群、Ⅱ群、Ⅲ群上位施設へのオペラマスター提案
- 新工場償却や為替の影響による原価の高騰
- 増収に必要な費用増加
 - 見本費、広告宣伝、研究開発等
- 新工場生産設備据え付け調整
- 次世代の柱になる新製品と内製化の開発強化
- [P.T.HOGY INDONESIAの生産性改善](#)
- [オペラマスター施設に対するサービスの再構築](#)
 - [情報管理の構築、コーディネーター業務の標準化](#)

第56期(2017年3月期)第2四半期 売上高

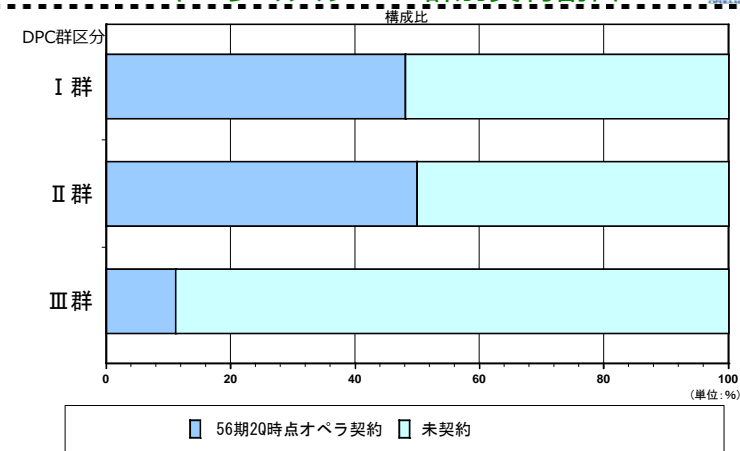
第56期（2017年3月期）第2四半期 主な製品の売上高伸び額



オペラマスター売上高推移



オペラマスター 群別契約割合



* DPCの病院区分は2016年度時点

オペラマスター進捗状況

オペラマスター浸透率・手術件数（契約期別）

オペラ契約病院 浸透率推移



売上高：7,161百万円（+516百万円：107.8%）

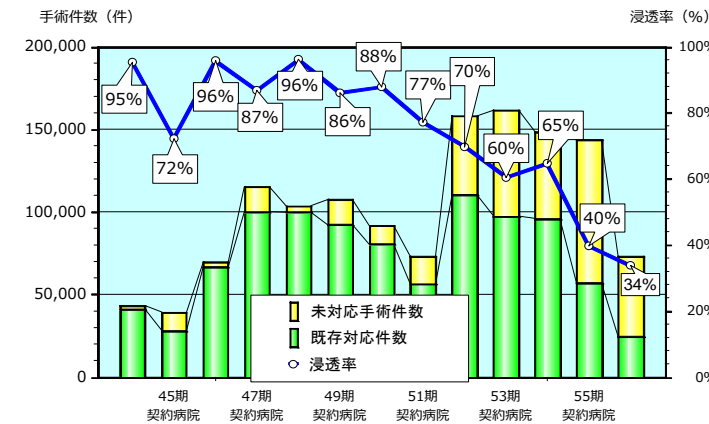
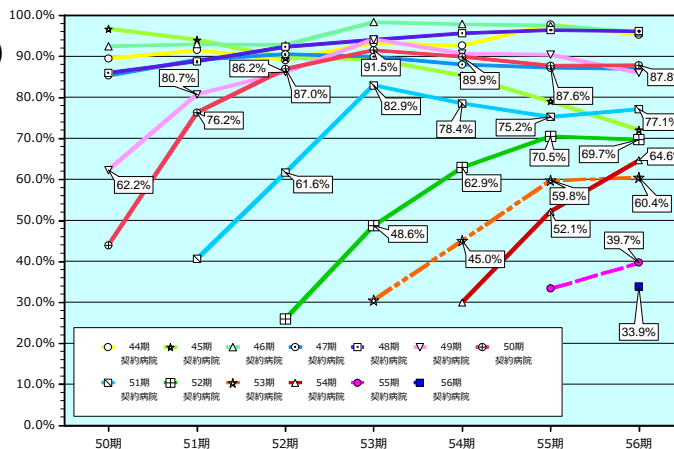
56期2Q契約施設数：

新規：15施設

- DPC I 群施設：1 施設
- DPC II 群施設：7 施設
- DPC III 群施設：7 施設

解約：7 施設

累計契約施設数：280施設



*契約、解約病院数は2016年9月末現在の状況

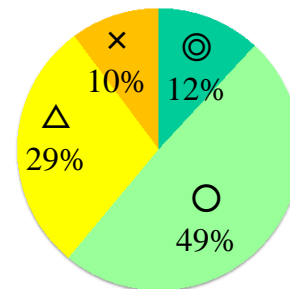
プレミアムキット進捗状況

9月末での臨床使用病院：44病院 臨床症例数：230症例
販売病院数：4病院

良かった点	悪かった点
開封がしやすい	複数箱が混乱する
荷崩れがない	綿球がビーカーに入らない
展開操作がしやすい	開封の手間が増えた
シーン別に分かれて準備しやすい	投入指定ができず使いづらい（上掛け・ガウン等）
直前展開できるようになった	器械台トレーがないと使えない
透明なので物を探さず展開準備が楽	
異物や投入違いの不安が少ない	
在庫管理が容易になった	

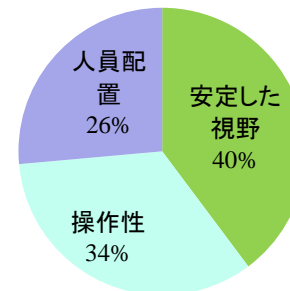
EMARO販売状況

EMARO臨床試用の結果



臨床試用での評価は高いが、病院での予算申請から執行までの時間が当社想定より遅れている
今後、人員強化等によるテコ入れを図る

EMARO評価ポイント



56期第2四半期売上高 ポイント

- オペラマスター前年比107.8%の成長
- 56期2Qオペラマスター獲得施設数：15施設
(DPC I群：1施設 DPC II群：7施設 DPC III群：7施設)
- 9月に入りオペ数の鈍化がみられる
- 内視鏡用ホルダEMARO2台契約、56期で48病院（累計86病院）での臨床試用を実施
- プレミアムキット臨床試用を6月末より開始し44病院まで臨床試用が拡大



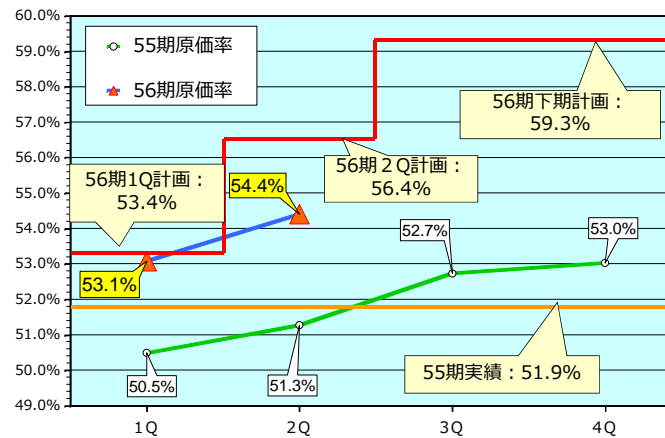
第56期(2017年3月期) 売上高計画

業績の詳細

第56期（2017年3月期）第2四半期損益計算書

単位:百万円 切捨て	16.3 55期2Q実績		17.3 56期2Q実績		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	17,652		18,310		657	103.7%
売上原価	8,982	50.9%	9,836	53.7%	853	109.5%
売上総利益	8,669	49.1%	8,474	46.3%	△195	97.7%
販売費及び一般管理費	4,286	24.3%	4,384	23.9%	98	102.3%
営業利益	4,383	24.8%	4,089	22.3%	△294	93.3%
営業外損益	84		△82		△166	
経常利益	4,467	25.3%	4,006	21.9%	△460	89.7%
特別損益	3		△1		△4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,035	17.2%	2,685	14.7%	△349	88.5%
E P S	193.00円		170.99円			

原価率推移

第56期（2017年3月期）第2四半期
利益分析

原価率：前年比 2.8%増加

- 新工場建屋及び機械取得による償却費の上昇
- 海外取引の際の円安影響

販管費：前年比 98百万円増

設備投資：4,427百万円（前期比：1,065百万円減）

償却：1,952百万円（前期比：502百万円増）

- 原価：1,450百万円（前年比：507百万円増）
- 販管費：502百万円（前年比：4百万円減）



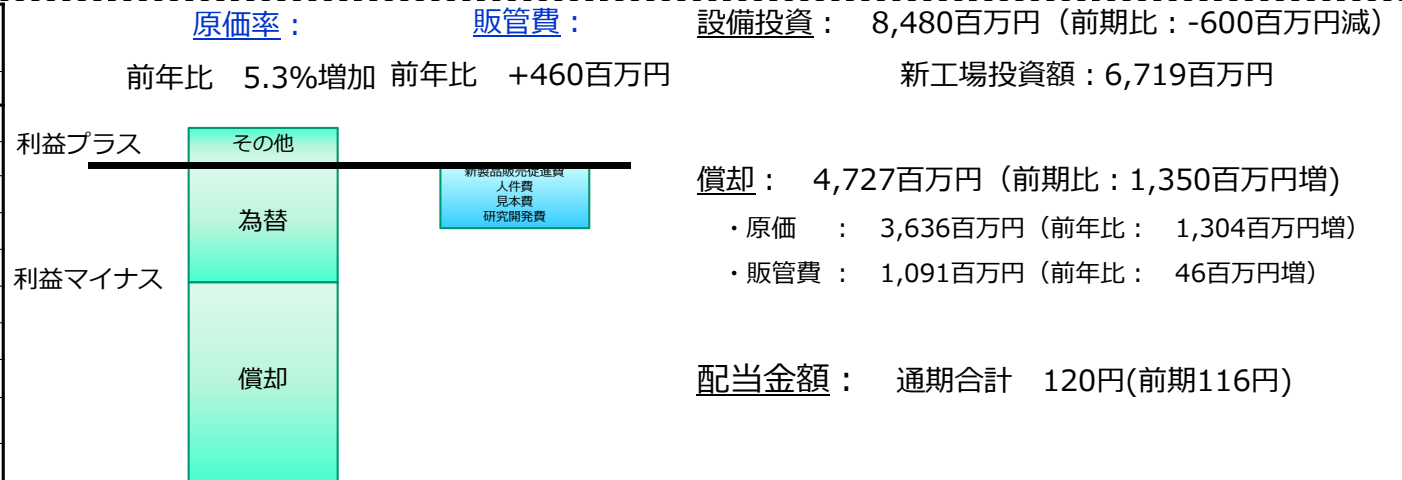
第56期(2017年3月期)詳細計画

第56期（2017年3月期）損益計算書

第56期（2017年3月期）利益計画



単位:百万円 切捨て	16.3 55期実績		17.3 56期計画		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	36,568		38,400		1,831	105.0%
売上原価	18,984	51.9%	21,960	57.2%	2,975	115.7%
売上総利益	17,583	48.1%	16,440	42.8%	△1,143	93.5%
販売費及び一般管理費	8,799	24.1%	9,260	24.1%	460	105.2%
営業利益	8,784	24.0%	7,180	18.7%	△1,604	81.7%
営業外損益	139		100		△39	
経常利益	8,924	24.4%	7,280	19.0%	△1,644	81.6%
特別損益	△180		0		180	
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,910	16.2%	5,000	13.0%	△910	84.6%
E P S	375.81円		319.62円			



中期経営計画の概要

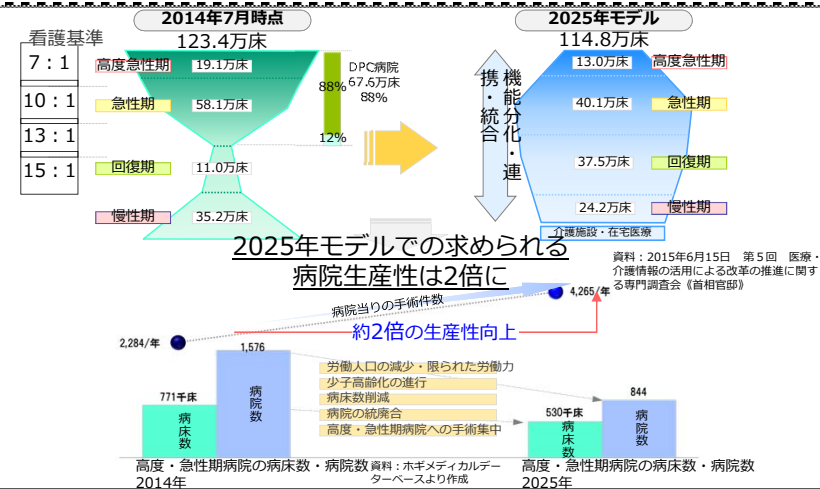
市場環境と当社の対応

中期経営環境

	2017年3月期 56期 (当期)	2018年3月期 57期	2019年3月期 58期	2020年3月期 59期	2021年3月期 60期
外部環境	・診療報酬改定 ・為替		・診療報酬改定 ・介護報酬改定 ・第7次医療計画	・消費税増税 8→10%	・診療報酬改定 ・東京リテック
市場環境	手術件数の集中化 (病床機能分化の促進) 外科的手術から低侵襲手術へ移行拡大 地域医療連携の強化				2025年 問題
当社の対応	プレミアムキット・プリスターキット開始 病院経営改善事業 拡大 (手術管理システム・ME機器管理システム・手術手順書システムの推進) 低侵襲事業 本格始動 (EMARO・ESD) 在宅介護事業 準備開始 新製品開発の推進 (病院との共同開発)				
生産		・新工場稼働	・PTインドネシア の生産自動化推進	・PTインドネシア の生産自動化推進	・PTインドネシア の生産自動化推進

2025年病床再編モデル

求められる病院
生産性は2倍に



目標とする経営指標

	56期現在 17年3月	60期 21年3月 (中期計画)	長期計画
売上高	384億円	475億円	1,000億円
営業利益率	18.7%	22.5%	30%
ROE	5.6%	7.3%	10%
時価総額	1,040億円	1,580億円	2,000億円

中期重点施策「継続的な安全成長」



売上高成長作戦

- 「オペラマスター」を病院全体の経営改善へ進化
- 「プレミアムキット」で医療現場の省力化に貢献
- 新製品の拡販（手術管理システムの充実、低侵襲関連製品等）
- 新製品開発（医療機関との継続的開発推進）

利益改善作戦

- 全社的な生産性向上
- 「オペラマスター」売上構成比を50%へ（プレミアムキットの販売）
- 新工場稼働による生産性の改善
- PT.HOGY INDONESIAの自動化推進

人員育成作戦

- 幹部社員の若返り
- 教育の充実（役職別、職種別の教育プログラムを導入）
- コーディネーターの育成、向上

コンプライアンスの強化

- 全体の業務棚卸、改善
- 情報関連体制の整備 ISO27001取得を目指す

損益計画書

単位：百万円・% 切り捨て	56期 17年3月 (当期)	57期 18年3月	58期 19年3月	59期 20年3月	60期 21年3月
売上高	38,400	39,990	42,140	44,690	47,580
営業利益	7,180	5,660	7,180	8,800	10,690
経常利益	7,280	5,760	7,280	9,160	11,010
当期利益	5,000	4,810	5,270	6,300	7,570
営業利益率	18.7%	14.2%	17.0%	19.7%	22.5%
EPS (自己株式控除後)	319.6	307.5	336.9	402.7	483.9
ROE	5.6%	5.2%	5.5%	6.3%	7.3%
減価償却費	4,727	6,537	5,818	5,222	4,518

資本の考え方

成長の元となる新製品開発及びそれに付随する設備へ投資

- 新工場の稼働
- 新製品の開発、生産設備
- PT.HOGY INDONESIAの効率化、自動化を推進

株主への還元

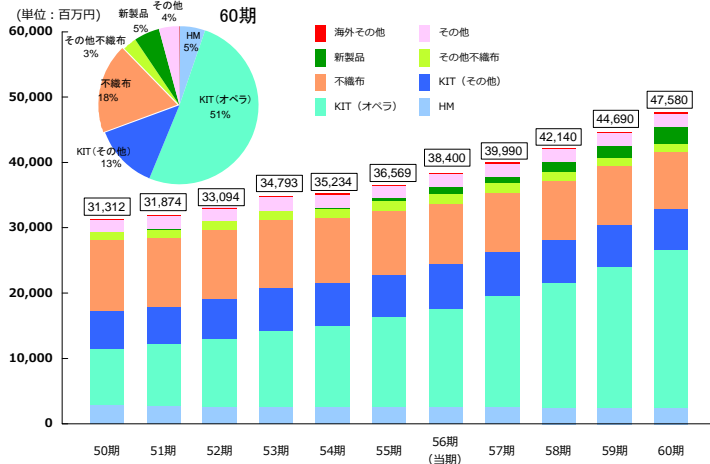
- 配当に関しては、業績を最重要とし償却等の影響は考慮せず!!
- 利益の分配に関しては、新工場の稼働状況や新製品に関わる費用を考慮しながらその都度検討

従業員への還元

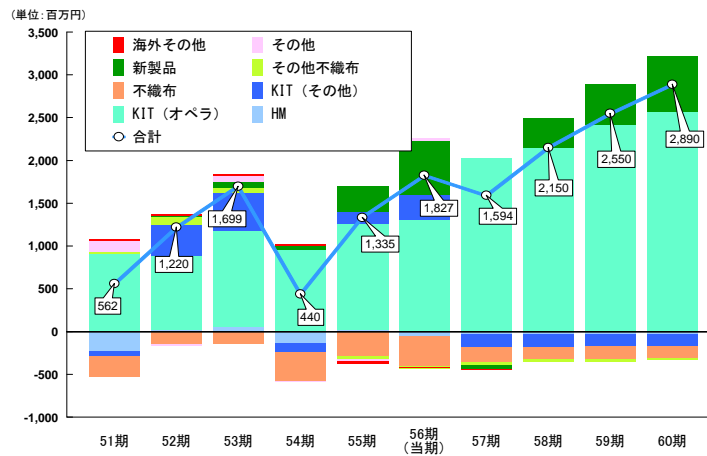
- 利益に連動した給与配分
- 従業員教育の充実

中期経営計画の詳細

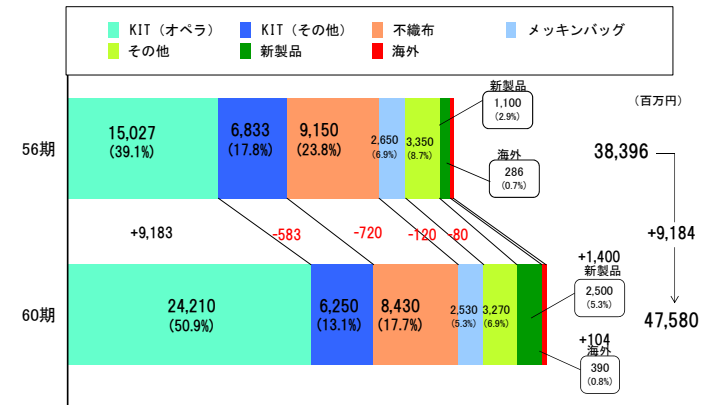
売上高



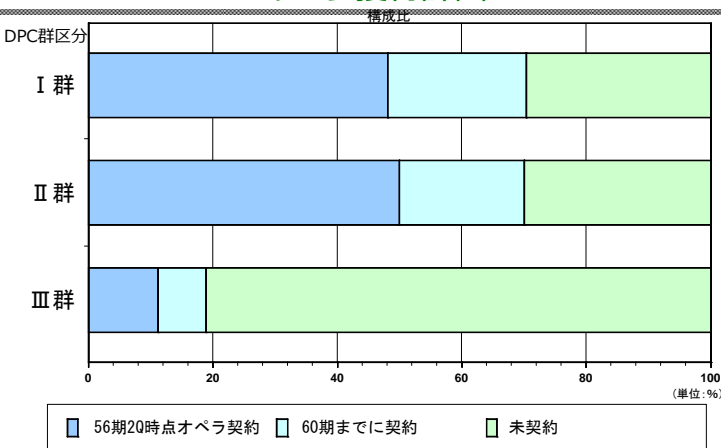
売上高 伸び額



売上高

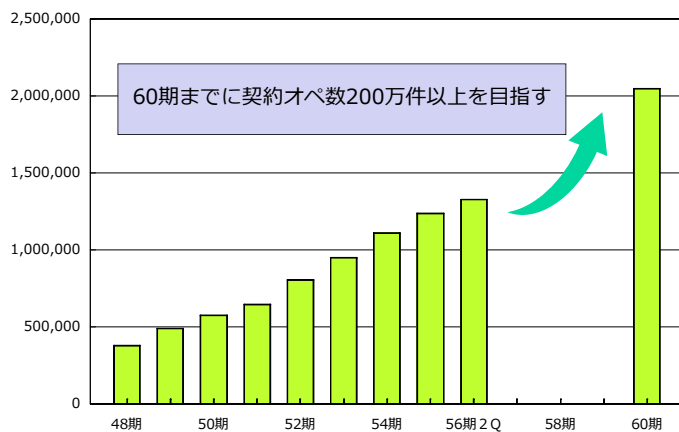


オペラ獲得計画



* DPCの病院区分は2016年度時点

オペラ獲得計画 (オペ数)



各種キットの定義について

	プレミアムキット	プリスターキット	タイバックキット (従来キット)
生産場所	新工場 (ムルチ)	新工場 (ムルチ)	筑波、美浦
安全性	自動化生産によるメリット 人的ミス撲滅 (入れ間違え、異物混入大幅削減)	自動化生産によるメリット 人的ミス撲滅 (入れ間違え、異物混入大幅削減)	従来通り
供給体制	竣工当初: 納期5日 (受注後48時間)	竣工当初: 納期5日 (受注後48時間)	従来通り
対象	術式別 手術準備から閉創まで	1箱3組までの製品対象 オペラ施設優先	従来通り
基準	キットテンプレート材料の 80%以上	キットテンプレート材料の 80%~30%	使用材料の少ない症例 キットテンプレート材料の30%未満



新工場コンセプト

1. 安定供給

- ・免震構造による生産設備の保全
- ・自動化により安定した生産を行い、短納期で出荷が可能

2. 使いやすい製品仕様

- ・お客様が使用しやすい製品形態へ変更（キットの付加価値アップ）
- ・使用する順番に材料展開が可能
- ・手術準備時間の短縮

3. 自動化、無人化による生産性と安全性の追求

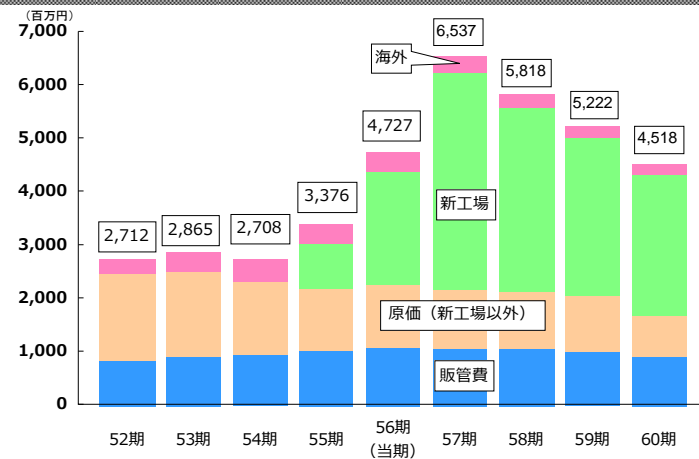
- ・自動化によるヒューマンエラーの防止と将来の原価低減
- ・人的に材料に触れないため最大限付着菌数の減少を図る

新工場計画

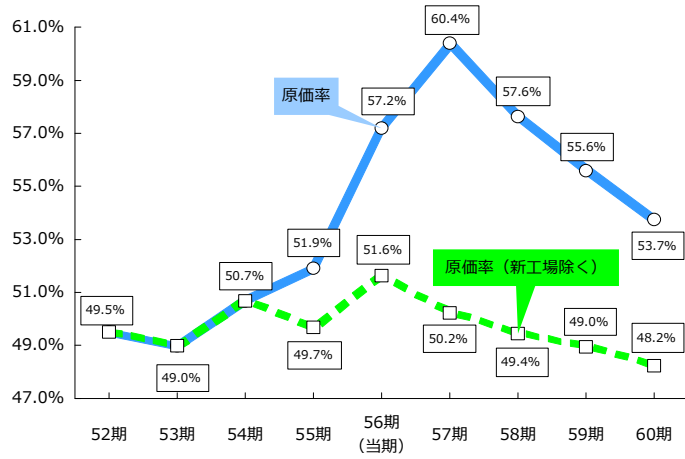
投資額の主な変更内容は生産性向上のための機械投資とシステム投資の増加

単位：百万円 切り捨て	53期 14年3月	54期 15年3月	55期 16年3月	56期 17年3月 (当期)	57期 18年3月	58期 19年3月	59期 20年3月	60期 21年3月
建 物	→				→			
生産システム			→		→			
機械設備		→						
■投資金額 33,400	5,100	12,681	7,300	6,719	800	400	400	
■減価償却費			815	2,084	4,069	3,448	2,963	2,627
*56期1Q発表 ■投資金額 30,751	5,100	12,681	7,300	4,200	1,470			
■減価償却費			815	2,170	3,550	3,390	2,850	2,440

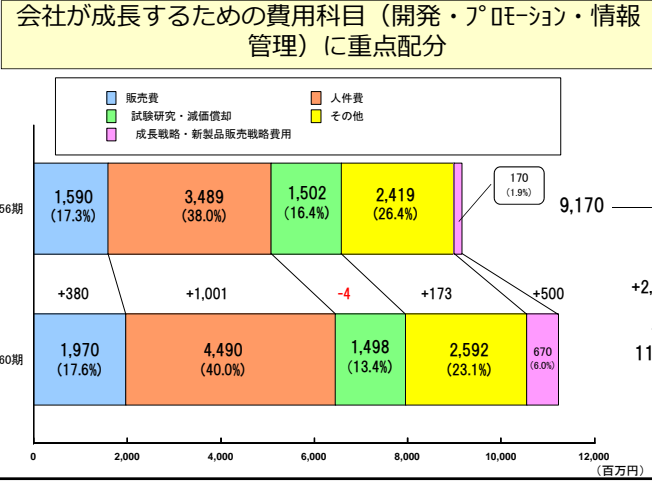
減価償却費



原価率



販売管理費



売上高・営業利益

